

1 学校評価の目的

今年度の教育活動その他の学校運営の状況について「児童生徒」、「保護者」、「職員」による評価を行ない、結果に基づく本校の更なる教育水準の向上、学校運営の改善を図るために必要な具体的な方法を検討するためにアンケート調査を行った。

2 実施状況

- (1) 令和6年度校務運営会議による質問項目の検討
- (2) アンケートの実施
- (3) アンケートの回収
- (4) 結果の整理
- (5) 分析

3 アンケート結果

(1) 児童生徒

一番重要視しなければならない児童生徒の回答は言語表出・文字表記が可能な児童生徒に限られることから、全容を捉えることの限界を加味し、少人数の意見でもその意見を共有し、対応を検討する。

ア 回収の状況 32名の回収

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目に対して「はい」「いいえ」「どちらともいえない」で回答、集計している。

ウ アンケートの概要

(ア) 児童生徒アンケート

共通項目として学校生活に関する7項目、対象生徒のみの寄宿舎生活に関する2項目について3件法により、また、学校生活および寄宿舎生活について自由記述による2項目のアンケートを実施した。

共通項目7項目の肯定評価(はい)が否定評価(いいえ)を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 共通7項目(学校生活に関する項目)について

- ① 肯定評価：90%以上→7項目中3項目 80%台 →7項目中3項目
70%台 →7項目中1項目 60%台 →7項目中0項目

- ② 肯定評価割合が上位なもの ()内は前年度
学校生活に関する項目

・Q4『先生は、あなたに健康や命の大切さを教えてくださいか』

肯定評価 97%(89%) 否定評価 0%(0%) どちらともいえない 3%(8%)

・Q6『先生は、地震や火事が起きたときに、安全に身を守る方法を教えてくださいか』

肯定評価 97%(89%) 否定評価 0%(0%) どちらともいえない 3%(8%)

・Q2『あなたは、先生に困ったとき相談できますか』

肯定評価 91%(67%) 否定評価 0%(6%) どちらとも言えない 9%(28%)

- ③ 肯定評価割合が下位なもの ()内は前年度
学校生活に関する項目

・Q5『先生は、あなたのやりたいことを励ましてくれますか』

肯定評価 78%(81%) 否定評価 3%(0%) どちらともいえない 19%(19%)

(ウ) 寄宿舎生活に関する項目 ()内は前年度

・Q9『あなたは、寄宿舎で安心して生活ができていますか』

肯定評価 100%(89%) 否定評価 0%(0%) どちらともいえない 0%(11%)

・Q10『寄宿舍の先生に、困ったとき相談できますか』

肯定評価 100%(44%) 否定評価 0%(11%) どちらともいえない 0%(44%)

(エ) 学校で楽しかったこと・頑張ったこと

※評価表参照

(2) 保護者

ア 回収の状況 39名の回収

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目ごとに、下記のA～Eの各評価の人数を割合として算出する。

A：非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B：まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C：少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D：大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

E：判断できない。

＊考察の方法として特に、肯定評価（A＋B）〔％〕が否定評価（C＋D）〔％〕を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

(ア) 保護者アンケート

共通項目として学校運営、教育活動に関する14項目、加えて寄宿舍生活に関する3項目を加えた全17項目について、5件法によるアンケートを実施した。評価については、評価理由の自由記述を加えた。

共通項目12項目の肯定評価（A＋B）が否定評価（C＋D）を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 質問全項目14項目（学校運営、教育活動に関する項目）

① 肯定評価：90%以上→14項目中6項目 80%台→14項目中6項目
70%台→14項目中2項目

② 肯定評価割合が上位なもの（ ）内は前年度

・Q7『担任は、学校での学習内容や学習活動を適切に説明していますか』

肯定評価 96%(100%) 否定評価 2%(0%) 判断できない 2%(0%)

・Q8『担任は、ご家庭と十分に連携を図っていますか』

肯定評価 96%(100%) 否定評価 2%(0%) 判断できない 2%(0%)

③ 肯定評価割合が下位なもの（ ）内は前年度

・Q5『交流及び共同学習は、お子さんにとって有意義なものになっていますか。』

肯定評価 79%(84%) 否定評価 5%(6%) 判断できない 15%(10%)

・Q14『ホームページ（フェイスブックを含む）の内容は充実したものになっていますか』

肯定評価 71%(58%) 否定評価 11%(18%) 判断できない 18%(23%)

(ウ) 寄宿舍生活に関する項目（ ）内は前年度

・Q15『お子さんは、寄宿舍生活を安心して過ごしていると思いますか。』

肯定評価 100%(92%) 否定評価 0%(8%) どちらともいえない 0%(0%)

・Q16『寄宿舍の活動や行事は、お子さんにとって、充実したものになっていますか。』

肯定評価 100%(100%) 否定評価 0%(0%) どちらともいえない 0%(0%)

・Q17『寄宿担当は、ご家庭と十分に連携を図っていますか。』

肯定評価 100%(100%) 否定評価 0%(0%) どちらともいえない 0%(0%)

(3) 職員

ア 回収の状況 103名の回収

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目ごとに、下記のA～Dの各評価の人数を割合として算出する。

A：非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B：まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C：少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D：大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

＊考察の方法として特に、肯定評価（A＋B）〔％〕が否定評価（C＋D）〔％〕を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

(ア) 教職員アンケート

共通項目として学校運営、教育活動、研修に関する14項目、加えて働き方改革に関する6項目を加えた全20項目について、4件法によるアンケートを実施した。評価については、評価理由の自由記述を加えた。

学校運営等に関する14項目の肯定評価（はい）が否定評価（いいえ）を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 学校運営等に関する14項目（働き方改革に関する項目を除く）について

① 肯定評価：90％以上→14項目

② 肯定評価割合が上位なもの（ ）内は前年度

・Q7『私は、児童生徒が生き生きと学習活動に参加できるように努めている。』

肯定評価 100%(99%) 否定評価 0%(1%)

・Q4『私は、児童生徒間の触れ合い、関わりを大切にし、悩みや困り感に寄り添い、人間関係の育成に努めている。』

肯定評価 98%(99%) 否定評価 2%(1%)

・Q1『私は、学校経営計画・重点項目に沿って教育活動（学校業務）を行っている。』

肯定評価 97%(96%) 否定評価 3%(4%)

・Q2『学校は、安全な教育環境を整え、必要な健康教育の充実を図っている。』

肯定評価 97%(95%) 否定評価 3%(5%)

・Q6『私は、児童生徒の将来につながるように、今できることを大切にし、将来につなぐキャリア教育の視点で日々の指導・支援を行っている。』

肯定評価 97%(98%) 否定評価 3%(2%)

・Q13『学校は、関係機関における訓練や外部専門家（PT、OT、ST、スクールカウンセラー）等の指導内容・支援の視点を児童生徒の支援に生かしている。』

肯定評価 97%(95%) 否定評価 3%(5%)

② 肯定評価割合が下位なもの（ ）内は前年度

・Q3-②『私は、一人ひとりの子どもの評価（個別の指導計画の評価）を踏まえて、年間指導計画の評価、改善の機会があり行うことができている。』

肯定評価 81% 否定評価 19%

・Q3-③『私は、学習集団を構成する一人ひとりの学習状況に基づき、現行の教育課程を評価、改善する機会があり行うことができている。』

肯定評価 82% 否定評価 18%

・Q10『私は、キャリア発達の視点で個々の児童生徒の実態やニーズに応じた進路支援を行っている。』

肯定評価 85%(93%) 否定評価 15%(7%)

4 考 察

(1) 各評価における分析

ア 児童生徒

- ・Q2『あなたは、先生に何でも話し、相談できますか』については、肯定的評価の割合が 91%「どちらともいえない」との回答が9%の割合で示されている。昨年度の肯定評価の割合よりも 24%高い値となっているが、生徒たちの相談支援を考える上で引き続き重要な点として意識していく必要があると考えられる。
- ・Q3『あなたは、学校での学習やスポーツ、自分の係など自信をもってやっていますか』の肯定評価の割合が、昨年度の肯定評価の割合より 9%高い値となっている。児童生徒への学習支援を考える上で重要な点であると考えられる。児童生徒一人一人が的に学びを進めることができるようにさらに授業改善に努めていきたい。
- ・寄宿舎生にかかわる項目では、寄宿舎生活の中でできるようになったことの自由記述において、洗濯や掃除など、日常生活に関わる身の回りのことができるようになったことについて示されている。寄宿舎生活を通して、様々な生活スキルを身に付けられたことを実感し、充実感が得られていると考えられる。

イ 保護者

- ・Q7『担任は、学校での学習内容や学習活動を適切に説明していますか』及びQ8『担任は、ご家庭と十分に連携を図っていますか』の肯定評価の割合が 96%となっている。毎日の学習活動について、内容や取り組みの様子を保護者にしっかり伝えていることが評価されたものと考えられる。引き続き、より丁寧に伝えることができようように努めていきたい。
- ・Q12『学校からの通知表は、分かりやすいものになっていますか』について、日頃の子どもの成長がまとめられいるといった肯定評価が多かったが、文字が小さすぎる等のご意見もあったので、より読みやすく分かりやすいものになるように努めていきたい。
- ・Q14 ムページ（フェイスブックを含む）の内容は充実したものになっていますか』の肯定評価の割合が 71%となっている。情報発信の充実について継続して考えていくが必要であると考えられる。
- ・寄宿舎生の保護者のみによる質問項目については、肯定評価の割合が 3項目とも 100%となっている。寄宿舎生活の充実について評価されているとともに、家庭との連携が十分に取れていると考えられる。

ウ 職員

- ・Q2『学校は、安全な教育環境を整え、必要な健康教育の充実を図っている』では、肯定評価が 97%であった。必要な健康教育の充実、感染症窓の予防、ヒヤリハット事例の共有を図り進めてきている。今後も、関係機関との連携を図りながら、児童生徒の安心安全な環境づくりを進めていけるように努めていきたい。
- ・Q13『関係機関における訓練や外部専門家とうの指導支援の視点を児童生徒の支援に生かしている』では、肯定評価が 97%であった。多くのアドバイスを頂き、児童生徒の支援に生かしているなど有効に活用している。今後も、療育センター、岩手医科大学、みちのく療育メデカルセンターとの連携を強化し、教育と医療の関係を一層強化できるように努めていきたい。
- ・Q3-②『私は、一人ひとりの子どもの評価（個別の指導計画の評価）を踏まえて、年間指導計画の評価、改善の機会があり行うことができている。』と、Q3-③『私は、学習集団を構成する一人ひとりの学習状況に基づき、現行の教育課程を評価、改善する機会があり行うことができている。』については、肯定評価が 80%台であった。個別の指導計画を基に、児童生徒との日々の教育活動に取り組んできている。今後も、職員間同士で確認する時間等を有効に活用し、授業実践にも取り組み児童生徒の学びの充実につながるよう努めていきたい。